東海労 関西
２０１８年
６月１１日
第７８７号
ＪＲ東海労新幹線関西地方本部
http://www.geocities.jp/jrcu_kansai/
発行責任者 小林　國博　編集責任者 島津　力

「のぞみ265号」で殺傷事件！

今までの施策・対策では乗客・乗務員の命は守れない！　抜本的な対策を！

６月９日２１時４５分頃、「のぞみ２６５号」に乗車された多くのお客様が「殺傷事件」に巻き込まれるという事態が発生しました。１２号車に乗車した男性は、突然、隣の席に座っていた女性２人に刃物を持って襲いかかりました。そして、それを止めに入った男性ともみ合いになり、車内はパニック状態になりました。その結果、１名の男性が死亡、２名の女性が重傷、そして多くのお客様に一生忘れることのできない恐怖心を与えてしまいました。

２０１５年6月３０日には「のぞみ２２５号」で焼身自殺事件が発生し多くのお客様が犠牲になりました。そして、２０１６年5月１６日には「のぞみ３８号」で乗務員が刃物を持った男性に襲われ傷つけられました。そして今までの悲劇が教訓化されることなく、またもや悲劇は繰り返されてしまったのです。

新幹線の車内は逃げ場の無い密室状態であり、ひとたび事件が起これば多くのお客様が事件に巻き込まれてしまうことになります。私たちは、犠牲になられたお客様のご冥福を心からお祈りすると共に二度と同じ様な事件が起こらないよう会社に申し入れを行い対策を求めていきます。

「車内業務の見直し」は乗客と乗務員の生命に危険を招く施策である。

会社は、今年３月のダイヤ改正で「車内業務の見直し」を行い、新幹線の車掌を３名から２名に減らしました。私たちは、この施策に対して「異常時の対応力が低下する」「反対である」と主張しましたが、会社は「車内防犯カメラを増設する」「ＪＲＣＰ（パーサー）の役割を広げることで異常時の対応力は向上する」と言い放ち、労働条件の悪化と仕事への不安で退職者が増加しているＪＲＣＰの現実を無視して、車掌を３名から２名に減らしたのです。

私たちは、この「車内業務の見直し」が現実と大きくかけ離れ、乗客・乗務員の生命への危険を招く施策であるとして、施策提案以降今日まで中止を求めてきました。そのような中でまたもや発生したのが今回の殺傷事件なのです。

現在のシステムでは、多くのお客様の不安は増大するばかりです。車内防犯カメラだけでは車内の安全は守れません。様々な対策が必要です。

私たちは、まず警備員の添乗は当然のこと！早急に車掌を２名から３名に戻すこと！を要求します。